

特集

支援対象5カ国の 奨学生の夢・希望

- MS&ADインシュアランスグループ
第19回バレンタイン・チャリティコンサート
- ラオス・スタディツアー報告

公益財団法人に認定されました

税制優遇措置が適用されます！

公益財団法人 民際センター 理事長 秋尾 晃 正

2014年4月1日に内閣府大臣官房公益法人行政室に赴き、公益財団法人の認定書を受け、正式に税制優遇措置団体となり、名称も「公益財団法人 民際センター」となりました。公益財団法人の目的は、民の主体的な発想と公益事業を国に代わって実施するということです。弊団体の場合は「国際相互理解の促進を図り、世界の貧困削減と平和構築に寄与することを目的とする教育支援等に関わる事業」を実施する公益目的事業団体として認定を受けたわけです。

1988年に任意団体として活動を開始し、21年後の2009年、新しい法律の下で「一般財団」として法人格を取得しました。そして5年後の今年、「公益財団法人」に認定されました。この間、26年の歳月が流れました。

認定を受けた記念すべき4月1日は、奇しくも消費税が5%から8%になった日です。高齢化社会における社会保障の財源に充当することが増税の目的だと言われています。この日は、見方によっては、税金と自発的な民の寄付金の公益活動の効果を比較するような象徴的な日でもあります。因みに皆様の寄付の総額約2億円とODAの2億円を比較すれば、費用対効果は明白で、弊団体の活動に軍配があると言えます。

税金が有効に使われるなら、喜んで税を納める意識が醸成されるはずですが、そういう意識は育っていないようです。日本政府が抱える約1,000兆円の国債（借金）は、国の政策の失敗ゆえの次世代への借金です。そして今回の消費税アップ。明るい未来が見えないまま税金を払うなら、そのお金を自発的に寄付し、魅力ある豊かな社会の形成に貢献したいと思う人の方が多いのではないのでしょうか。だからこそ、「税制優遇措置は適用されていますか？」と多くの方が電話口で聞いてきます。4月1日より、声を大にして「はい、あります」と答えることができます。喜ばしい限りです。大きな進展です。

確定申告をすると、税額控除方式の計算式を適用する場合、一口の奨学金14,400円に対して4,960円が所得税から控除され、奨学金提供者に戻ります。一口の奨学金のうち4,960円を国が支援し、奨学金提供者に還付されるわけです。大いにこの制度を利用し、皆様とともに魅力ある豊かな日本社会の形成と日本生まれの日本の教育支援の運動を世界に広めることができたら幸いです。

ダルニー通信は次号から年2回(夏・冬)になります

その代わりに、12ページから20ページに増えます。これまで同様、夏号はタイ/ミャンマーの奨学生の証書と写真、冬号はラオス/カンボジア/ベトナムの奨学生の証書と写真と一緒に郵送されます。次号75号は冬号(12月発行)です。また、今後はインターネットによる情報提供を少しずつ増やしていきたいと考えています。情報をご希望の方は、メールアドレスをmerumaga@minsai.org(担当:山本)までお知らせください。

中学校に通う5カ国の奨学生が持つ夢



経済的に貧しいと夢を持つこと、それを持ち続けることが難しくなります。加えて低学歴だと、夢を持つことを諦めてしまいがちです。そこに、外国から奨学金が送られてきて、卒業まで中学校に通えるようになる——。子どもたちにとっては、未来に立ちほだかる厚い雲間から一条の光が射し込んできたように思われるのではないのでしょうか。もしかしたら、医者になれるかもしれない、先生を養成する短大に行けるかもしれない……。奨学金をもらって、厳しい現実を感じながらも、以下の5つの国の奨学生の心に微かな希望の芽が出てきました。



素晴らしい医者に出会ったから、夢は医者

ハティ・タン・トゥイ(中1)

「私は生まれたとき、2つの難病を持っていました。1つは肺の病気、もう1つは心臓病です。体調が悪いときでも、両親を心配させまいと思って平気な顔を保つように、小さい時から努力してきました。

病院では、医者はいつも親身に診察してくれました。病院でくれた薬を私が飲み渋ると、その医者はいつもニコッと笑って飲むように勧めてくれます。ステな笑顔!そして奇跡的に心臓病は治り、医者もとても喜んでくれました。でも肺病の治療は進まず、その治療費の捻出のため、両親は様々な仕事を探しながら必死に働かなければなりませんでした。ここで、また奇跡。私の家族が貧しいため、治療代がタダになったのです!!

私の夢は決まりました。医者です。医者になることです。病気で苦しむ人を治療する医者、そして貧しい人には無料で治療を施す医者です。私の今の成績はバツグンとは言えないけれど、高校に行けたら、数学、化学、生物をもっと一生懸命に勉強してホーチミン市にある医科大学に進みたいです。夢は貧しい人々を無料で治療する医者。私は確信しています、『為せば成る』と。先生や家族の応援、そして奨学金の支援で!」

ベトナム事務局のコメント



難病にもかかわらず、トゥイは前向きに生き、努力を怠らず、夢を育てています。面倒を見てくれる家族への愛情と医者への尊敬。特に、医者に対する彼女のイメージはとても美しいもので、「無料で貧しい人々を治療する」医者になることが彼女の心からの夢になっています。彼女の夢を叶えるため、中学卒業後、高校・大学と彼女を支援していただける方がいらしたら、ぜひ支援をお願いしたいです。

※現在のダルニー奨学金システムでは、トゥイの支援は中学3年間までです。



中学に入ってはじめて夢を持てたけれど

シビレイ・パイサポーン(中1)

「私はシビレイ・パッサポーンです。中1でサワンナケート県の貧しい農村部の中学校に通っています。私は小学校の時、将来の夢を持つことはありませんでした。小学校が終わったら、両親の仕事である農業と日雇い労働をすると思っていたからです。ところが、中学の奨学金も提供してくれることになりました。それで中学校に通い始めました。そしたら、急に将来のことを考えるようになりました。私は何になりたいのだろうか……。一生懸命考えた結果、先生になりたいと思うようになりました。先生になれば、給料が入って生活が安定します。子どもたちに知識を授けることができます。両親も私を誇りに思ってくれます。私も家族も子どもも村の将来もぜんぶ良くなる。うん、やっぱり先生になりたい。

とはいえ、今の私の家族の状況はとても貧しいのです。小さい時に父が死に、母が必死で働いています。この状況ではやっぱり先生になるのは無理かな……。夢は夢のまま終わるのかな……。万が一、高校も奨学金をもらえたら、もっと一生懸命に勉強して良い成績を取って、先生になる短大に入って……。なんて夢をちょっと考えるようになりました」



担任の先生のコメント



シビレイは貧しいゆえ家族の手伝いに忙しく、小学校を休みがちで落第し、以前に学校をやめようとしたことがあります。しかし、先生が両親を説得して学校に戻ってきました。

シビレイは奨学金をもらって中学校に通うことができ、とても喜んでいます。学校も休まず、一生懸命に勉強します。彼女の夢が実現できたら素晴らしいですね。夢が実現しても不思議ではないくらいによく勉強をする良い生徒です。



社会発展に貢献したい二人の中3

ハーン・サトリー(中3)

中3のハーン・サトリーは医者になることが夢です。医者になって、農民、中でも貧しい人々の治療をしたいと思っています。というのも、カンボジアでは貧しい人々は病気になると、ただちに非常な生活苦に直面します。治療費を払うために、財産を売らなければなりません。そのため、十分な治療を受けられない人が少なくありません。こうした実情を見て、満足な治療を受けられない人々を助けたいとハーンは思っています。しかし「私の家族は貧しいので、どこまで勉強できるかわかりませんが……」。ハーンは夢を実現することが決して容易なことではないと思っています。

クマオ・チンの夢は中学校の先生になることです。「先生になることで世間や両親から認めてもらいたいです」と語ります。「社会を良くするには、しっかりした教育が必要です。良い教師になって、道徳に優れ、社会に役に立つ人を育てたいです。それが私たち自身や村、国を発展させる道です」。中3でありながら、彼女は自分の成功だけでなく、社会の発展に貢献する視点で将来を考えています。



クマオ・チン



ハン・サトリー

カンボジア事務局のコメント



たいていの親は子どもになるべく高い教育をうけてもらいたいと思っています。しかし、高い教育の結果を得るのはずっと先であり、今日明日を生きるのに精一杯な親は、教育にお金を使うことを諦めてしまいます。貧富の差で教育を受けられず、そのために夢を実現できないような社会から早く脱出したい、それがカンボジア事務局の「夢」です。

**2014年度ラオス・カンボジア・ベトナム
奨学金の締め切りは7月20日です。**



タイ



皆とは違う夢を持つ

ナッタポン・ブッパ(中1)

「大きくなったら美容師になりたい。なぜって、真面目な職業だし、しっかり収入を得て、祖母と妹の3人家族を支えることができるから。祖母は私たち姉妹を育てるために死に物狂いで働いています。だから、祖母の負担を軽くするためにできるだけ家事を手伝っています。早く大人になって仕事をget、祖母に楽になってもらいたい。

他の生徒はみな先生や医者、看護師になりたいと言います。美容師は少数派。でも美容師だって訓練を受けて、プロとしての技術を身につけなければなりません。美容師になるには、まず中学をちゃんと卒業して、その後に職業専門学校で勉強しなければなりません。でも奨学金を得られなければ、中学を卒業できず、職業学校にも行けません。その場合、美容院で働いて給料をもらいながら、そこで勉強をさせてもらいたいと思っています。お金を貯めて職業専門学校に行き、村で美容院を開きたい。それが夢です。中学をちゃんと卒業するにも職業専門学校へ行くにもお金がかかるし、お店を開くにはもっとお金がかかります。夢が実現できるまで、どのくらい時間がかかるかわかりません」

担任の先生のコメント

ナッタポンは幸薄い生徒です。離婚した両親がどちらも面倒を見ず、妹とともに祖母が引き取りました。でも成績は良く、生徒とも仲良く過ごしています。彼女の夢は他の生徒とは違いますが、うまく実現して家族を養っていくことができることを願ってやみません。



校長先生といっしょに

教師なら、ひょっとして・・・

チット・プット・トゥ(中1)

私が大きくなったら、教師になりたいと思っています。その理由はミャンマーの文化に基づく以下の5つです。

1. 仏(悟りを開いた人)
2. 仏陀の教え
3. サンガ(仏僧の教え)
4. 両親
5. 先生

ミャンマー人は一般にこの5つを同じレベルの尊敬をもって遇しています。教師になりたい理由のもう1つは、教師は生徒の勉強を導いて良き大人となり、生まれた村だけではなく隣国のように発展した国づくりに貢献する人に育てることができるからです。さらにもう1つ、理由を挙げるとすれば、ちょっと悲しい理由ですが、我が家の経済的な状況です。私の父親は木材の日雇い労働者で、私たちを家に置いてミャンマー西部に出稼ぎに行きます。収入は低く不安定で、お姉さんは小5で学校を中退し、経済特区の縫製工場で働いています(兄は中学4年、弟は2歳です)。私はなんとか高校を卒業したとしても、それから7年も勉強しなければならぬ医科大学や工学大学に行く経済的余裕はありません。しかし2年間の教師養成短大ならひょっとすると可能性があります。まだあと5年あります。5年後の両親の収入が今よりもっと増えれば、私の夢にも可能性があります。

卒業したとしても、それから7年も勉強しなければならぬ医科大学や工学大学に行く経済的余裕はありません。しかし2年間の教師養成短大ならひょっとすると可能性があります。まだあと5年あります。5年後の両親の収入が今よりもっと増えれば、私の夢にも可能性があります。

担任の先生のコメント

チットは私のクラスの生徒で、よく勉強しています。お兄さんは中4です。両親の収入が低いので、高校卒業後に医科大学や工学大学に行く余裕はないと思います。もし彼が奨学金をもらって高校まで卒業できれば教師養成短大に入って、小学校のアシスタント教師になることができるかもしれません。それをステップにさらに経験を積めば、正規の先生になる道も開けます。

小学校に付随した中1の教室建設にご協力を

一教室200万円です

理事長 秋尾晃正

税制優遇措置団体認定後の新企画として、ラオスの中学校1年生用の一教室建設事業を今年度から開始いたします。目的は二つです。一つは中学への就学を郡部で促進し、中学教育の意識の向上を目指すこと。第二はラオスの中1は日本でいうと小学六年生に当たり、少なくとも小六までの教育を促進することです。是非、一考して下されば幸いです（2014年度の確定申告により寄付金控除が適用されます）。

【現状】

ラオスの小学生は1学年あたり17万6千人で、中学生は一学年あたり9万6千人なので、その割合は54%です。また約9,000校ある小学校に対し、中学校は中高一貫校も含め、約1,500校で17%しかありません。言い換えれば、県庁や郡庁所在地には中学校があるが、そこから離れるほど中学校が少なくなるといえます。弊センターがタイで教育支援を開始した1988年、中学就学率は対象地域で20%でした。現在のラオス同様、中学校の校舎と先生の不足が原因でした。小学校に中1クラスを設け、小学校の教師が中学生を教える新制度を構築し、私たちは集中的に郡部のこれらの学校に奨学金を提供した結果、毎年就学率が急激に上昇し、20年を経ずして、義務教育化が可能となったわけです。経済的に発展しようとするラオスは中学校教育が最大の課題です。そこで、中学就学を促進する一番費用対効果のある方法として、小学校に付随した中学校一年生の教室を増設し、郡部で中学教育の意識を高めることにあると結論に達しました。

そこでラオス教育省に提案しました。

小学校は初等科の管轄、中・高等学校は中等科の管轄で、国の制度改革には時間がかかります。もし弊センターが郡部の小学校に中1の教室を建設したら、「特別扱い」が可能かと問いただしたのですが、事前に判れば有能な小学校の先生をその学校に任命し、中1のクラスを担当させるとの明快な返答がありました。新しい事例を認めただけでなく、その事例を広めてほしいとの要望すらありました。これがスタートすれば、変化の事例を構築し、それを普及し、正式に制度を変える変容に発展させ、10年を



ラオス農村部の平均的な中学校校舎

待たずにラオスの中学教育の義務教育化が実現することが可能かもしれません。

私の希望として、教室には寄付者の名前で、生徒たちへの「メッセージ」のプレートを設置したいと思っております。

⇒資料請求および問い合わせは「中一教室事業」、担当志賀まで。

ラオス・ランチプロジェクトの支援者募集

今号12ページで報告しているラオスのランチプロジェクトは現在3校で実施していますが、週1~3回の給食なら実施可能であることが判明しました（最終目標は週5回）。ラオス教育省も注目し始めています。同プロジェクトは、学校給食を全国の学校に普及することを目指していますが、現在はパイロット事業です。同プロジェクトに関心のある方は、資料をご請求ください。

19回目を迎えたチャリティーコンサート

*** 3年間支援の奨学生が累計392名に！ ***



去る2月21日（金）、三井住友海上 駿河台ビルの1階大ホールにおいて、MS & ADゆにぞんスマイルクラブとMS & AD軽音楽部の共催による「バレンタイン・チャリティーコンサート」を開催いたしました。

私たち軽音楽部は、音楽という共通の趣味を通じて集まったMS & ADグループ社員からなり、現在総勢約50名の部員が在籍しています。

このイベントはMS & ADグループ社員がバンドを組んで趣味の音楽を演奏し、参加者の皆さまにコンサートを楽しんでいただきながらチャリティーに協力いただくもので、1996年の第1回目以来、今回で19回目を数える歴史のあるイベントです。

当日は、当社グループの社員で構成される3つのバンド（総勢19名）が出演。J-POPから洋楽まで幅広いレパートリーを披露。当社グループ・チャリーディングチーム「ドルフィンズ」（8名）、

「三井住友海上管弦楽団」（2名）とのコラボレーションも実現し、会場は大いに盛り上がりました。

社内外より144名の方にご来場いただき、収益金と募金の合計は、1,286,068円となり、タイ・ラオス・カンボジアの子どもたち38名に奨学金として贈呈できる運びとなりました。

また、1996年の第1回からの寄付金総額は1,193万円に達し、これまで支援させていただいた子どもたちは累計で392名に達しました。

当日ご来場くださった皆様、ご寄付くださった全国、海外の皆さま、ありがとうございます。来年はこのチャリティーコンサートは第20回目という記念すべき節目を迎えますが、引き続き30回、40回・・・とアジアの未来を担う子ども達の夢をかなえるお手伝いを続けていきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。



新潟の大学生ボランティア団体「ラオスク」が ラオス研修旅行と報告会を実施

事務局 原口 央

NPO法人新潟国際援助学生ボランティア協会（＝通称「ラオスク」）は昨年12月21日～26日にラオス研修旅行を実施し、今年3月15日に新潟市中央公民館で同旅行の報告会（写真右）を行いました。大学生4名と社会人1名が参加した研修旅行は、サワンナケート県サイヤペット村訪問を中心に行いました。同村には、国際センターの協力のもと、新潟の大学生達を中心に活動しているラオ・スクール・プロジェクトが学習や交流の拠点となることを期待して建設した学校図書館があります。その後の利用状況を確認するとともに、村の皆さんとの持続的な交流、大学生の研修を目的に研修旅行を行いました。

村ではバーシーや子どもたちの民族舞踊などの歓迎を受けました。学校では大学生と奨学生の文化交流を楽しみ、また、日常生活を知るため民泊先の家庭料理の作り方も教わりました。図書館については学校の先生方の努力もあって授業や放課後の利用などが進められている一方、貸出業務には至っていませんでした。今後は図書館を運営するスタッフの育成や子供たちの

読書活動の推進、飽きさせないための図書の更新、施設維持管理について、持続的な取り組みを考えていく必要があります。

報告会ではラオスコヒーを楽しみながら意見交換を行い、その後、米粉とココナッツミルクの焼き菓子作りに挑戦しました。



ラオス・カンボジアで自転車プロジェクトがスタート

国際センターは農村地域に住む貧困家庭の中学生支援を行っています。その地域では、中学校に就学できない生徒たちや中途退学を余儀なくされる生徒たちが多くいます。さまざまな理由がある中で、その理由の一つである通学問題を少しでも解消するために、ラオスとカンボジアで自転車プロジェクトを開始します。

支援対象者： 通学に往復で徒歩2時間以上かかる、農村地域に住む貧困家庭の中学生

対象地域：

カンボジア（コンポンチュナン県・カンポット県・タケオ県）

ラオス（カムアン県・サワンナケート県・サラワン県・セコーン県）

支援品： 新品自転車（青とピンク）、修理道具、空気入れ、ウォーターボトル（ラオスのみ）

支援金額： 15,000円（1口）



*ご寄附されると生徒からポストカードが届きます。また奨学生へは支援者のお名前が記載された証書が送られます。

お礼のポストカードが届くまでのスケジュール

	お申込み期間	提供時期	お礼状送付時期
ラオス	① 1月～8月	10月中旬	11月中旬
	② 9月～12月	2月初旬	3月初旬
カンボジア	随時	お申込みから2ヶ月	お申込みから3～4ヶ月

※やむを得ぬ事情により、寄贈日、ポストカードのお届け日が遅れる場合がありますこと、予めご了承ください。

※詳しくはホームページをご覧ください。



Study for Two 支援奨学生（写真後方の男子4名）との対面

ラオスタディツアーに参加・交流し、支援奨学生にも会えたStudy For Two 龍谷大生！

H.I.S.と民際センターは協働で年2回ラオスタディツアーを実施しています。参加者にラオスの子どもたちと交流および国際協力をしていただくツアーです。

2014年3月に催行した参加者の1人で、ラオス奨学金支援学生団体Study For Twoの龍谷大学支部で活動する村上さんにツアーに参加した体験をお聞きしました。まず

多くの選択肢からラオスを選んだ理由を聞きました。「Study for Twoが支援する子どもたちの国だから。次にラオス地方農村部という1人ではなかなか行けない場所だから」。

ツアーは首都ビエンチャンから出発。車に揺られ、のどかな農村地域の景色が続く道を6時間！到着したカムアン県ポンサイ村の小学校の子どもたちが一行を待っていてくれ、可憐な野の花束を手渡してくれました！ポンサイ校にStudy for Two支援の奨学生4名がいることが事前にわかっていたので、村上さんは奨学生と対面できました。「外見は子どもだけど、しっかりしているという印象。毎日、家事手伝いや幼いきょうだいの世話をしているからだろうと思いました」。子どもたちに「将来の夢」を聞いたところ、教師・警官・軍人という答え。思わず心の中で「彼らの将来に幸あれ。夢の実現に頑張れ」と祈り、「これからもラオス奨学金支援、がんばるよ」と誓った村上さん。

ツアーで良かった点は「支援する奨学生との対面、年齢に幅があるにもかかわらず参加者とラオスへの思いを共有できた。学校での交流、奨学生宅訪問、畑仕事や植樹体験、美味しいラオス料理」と嬉しそうに村上さんは語ってくれました。訪問校は「浦上ランチプロジェクト（ラオス学校給食普及事業）」モデル校で、参加者は同校で有機栽培されている農作物や飼育されている家畜の見学だけでなく、これらを食材として一緒にランチを作って食べる体験もできました。



長旅の疲れも吹き飛んだ、ラオスの子どもたちの歓迎！



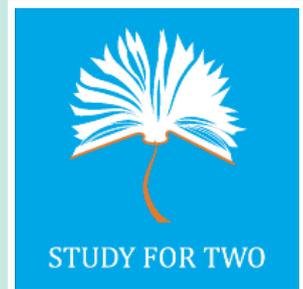
ラオスの人たちと一緒に作った料理に舌鼓



訪問校内で育てている有機栽培野菜への水遣りを手伝う



阪南大生が持参したドッジボールで親善試合。試合後にボールをプレゼント



Study for Twoとは

各大学で回収した教科書を安価で販売して、その収益で途上国支援を行っている大学生のグループ。早稲田大学でスタートし、現在、日本全国約70の大学で教科書の回収による国際支援活動を行っています。2013年度だけでラオス奨学生を約200人支援。また去年は、支部の大学が単独でラオスへの視察旅行を実施しました。

ラオス小学校支援と交流7日間

参加者募集！

出発日：2014年9月7日(日)

訪問地：ラオス

旅行代金：169,000円～174,000円

※大人お一人様代金/2・3名様で1室利用時/燃油サーチャージ含む
※各発着空港施設使用料、旅客保安サービス料、現地出入国税が別途必要となります。

支援がなければ小学校を卒業できない子ども達が就学し続けられるように、3名様のご参加で1人の子どもを支援する「奨学生支援プログラム」を組み込んだツアー。現地では、衛生教育もまだまだ行き届いていない村の子ども達に「手洗いや歯磨き」を教えたり、現地で日本の料理を1品作って給食として子どもたちに提供したりします。特別な技術が無くても、ツアー参加のアクションが子ども達の未来を創ります。



日付	スケジュール
①	成田・関空発 → 乗継(ホーチミンまたはハノイ) → ビエンチャン着
②	ビエンチャンから中部のカムアン県へ
③	村の小学校を訪問し、歓迎式・ランチプロジェクトに参加
④	村の小学校を訪問し、手洗い・歯磨きを教える活動
⑤	奨学生のお宅に訪問・お別れ会、ビエンチャンへ
⑥	自由行動、ビエンチャン(19:35)発 → ハノイ(20:35)着
⑦	ハノイ(00:20) → 成田・関空(6:40～7:00)着、解散

※ 弊センター建設の学校を訪問します。問い合わせは、担当田中まで。

編集後記

ダルニー通信72号で募集したエッセイコンテストにたくさんの作品の応募があり、1次審査ですべて読ませていただきました。テーマは「メコン5カ国の中の1国と私」「教育」「国際支援」から1題で、つい夢中になって読んでしまった作品がいくつもありました。タイ人の中学生が転校してきて、彼のひょうきんで分け隔てない振る舞いがクラスのいじめを解消した思い出。日本語の勉強のため、チェンマイ観光の日本人ツアーバスに乗り込んできた、タイ女学生とのほんの数時間の交流。夫婦で来日し、幼い子どもを2人も抱えながら言葉の壁を乗り越えてスーパーで働く、エネルギッシュなベトナム人女性の生き方。ニュージーランドで交流したカンボジア難民の両親が子どもの成長をあたたかく見守る家族の話(あくまで1次審査の段階です)。2次、3次審査を通った優秀作品が7月末頃、弊センターのホームページに掲載される予定です。「私もがんばらなくっちゃ」と心に火が灯ります。興味のある方はぜひお読みください。(富)



公益財団法人
国際センター

ダルニー通信 第74号 2014年6月1日発行 発行人：秋尾晃正
公益財団法人国際センター 〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL：03-6457-5782 FAX：03-6457-5783
Eメール：info@minsai.org ホームページ：http://www.minsai.org/
振替口座：00150-0-57664 (奨学金専用口座)
表紙：ラオス

— 紙面レイアウト協力 —

吉田シャシヨク 福岡県大牟田市小浜町1-5-17 ☎944-51-8604



子ども達と農作業を楽しむ浦上理事長



給食を食べる生徒たち

SPOT LIGHT



in ラオス

浦上ランチプロジェクトの セミナーが南催されました

志半ばで亡くなられたハウス食品(株)元社長の遺志を継ぎ、食品加工や食の安全に関する研究に対する助成事業、食文化に関する教育及び普及啓発活動などを行う「公益財団法人 浦上食品・食文化振興財団」から委託を受けたランチ・プロジェクトが2年目を迎えました。このプロジェクトの概要は以下の通りです。学校給食制度がなく、栄養について課題がある地方の小・中学校で先生・村人が自分たちの力で学校給食を提供する自立促進型モデルの確立で、それをラオス全土へ普及させることを視野に入れています。現在、ラオスの3つの小・中学校で開始し、野菜栽培、キノコ栽培、ナマズの養殖、養鶏を行っています。

2014年3月6日、モデル校の一つであるカムアン県ハドシェンジー小学校に教育省、県・郡の教育関係者ら約60人が集まり、ランチ・プロジェクトのセミナーが開催されました。そして、3つのモデル校がランチ・プロジェクトの進捗状況を発表しました。ラオス国営テレビも取材にきました。

ランチ・プロジェクトは順調に進んでいて、先生、生徒、両親はとても喜んでいること、給食が楽しみで生徒の欠席率が減少し、病気の生徒も減少したことが報告されました。打ち合わせのため村人たちの集まる機会が増え、彼らの関係がより親密になっています。地域活動がない社会で、母親などに自立継続の意欲も醸成できつつあります（これは画期的な現象です）。教育省、郡・県教育委員会との連携も深まりました。

生徒たちが育てたこのキノコが給食の食材になります



ランチ・プロジェクトセミナーの参加者

